

風景のなかで歴史を考える

20世紀の東ヨーロッパは2つの世界大戦で深刻な破壊を経験し、特に第二次世界大戦では戦禍のみならず、ホロコーストや住民の強制移住で5000万人の人々が殺害され、故郷を逐われました。戦後復興は巨大な廃墟から始められなければなりません。それでは第二次世界大戦前の過去、破壊の歴史は現在の風景のなかにどのように残っているのでしょうか。東ヨーロッパと本学周辺（東京都三鷹市、調布市、府中市）を例に現在の風景のなかに歴史を読み込み、私たちが暮らしている場所がどのような過去の上に成り立っているのか考えます。みなさんには、みなさんが住んでいる町、学んでいる町について同じ作業を試みていただきます。大学で歴史を学んだり研究したりすることは、過去に対する好奇心ばかりからではありません。いかに私たちが歴史的な存在であるかを考え、過去から現在、そして未来につながる道筋を見出して社会に貢献することが重要です。

1. ワルシャワ（ポーランドの首都）とホロコースト

第二次世界大戦前のワルシャワには約117万人の人々が住み、そのうちの3割はユダヤ教徒でした。1939年9月ナチ・ドイツがポーランドに侵攻すると、ユダヤ人に対する差別的な政策が実施され、翌年10月にはこの人たちのすべてが都市面積のたった3%を占めるばかりの土地に隔離されました。ナチ・ドイツの占領中にユダヤ人を隔離・幽閉した地域のことをゲットーと呼びますが、ワルシャワ・ゲットーはそのうち最大のもので、市外からも人々を受け入れ、一時は45万人以上の人々がたった3.4平方kmの土地にひしめくことになりました（人口密度は13万人/km²、ちなみに東京都でいちばん人口密度が高い豊島区は21,779/km²です）。收容された人は悪質な衛生環境、飢餓と疫病に苦しめられて多くの人が亡くなりましたが、1942年8月以降、生き残っていた人のほとんどは絶滅収容所に送られてガス殺されました。1943年4月、強制労働に従事させられていた人々を中心にゲットー内で蜂起が起こり約2ヶ月間持ちこたえたものの、最終的に鎮圧されゲットーは徹底的に破壊されました。

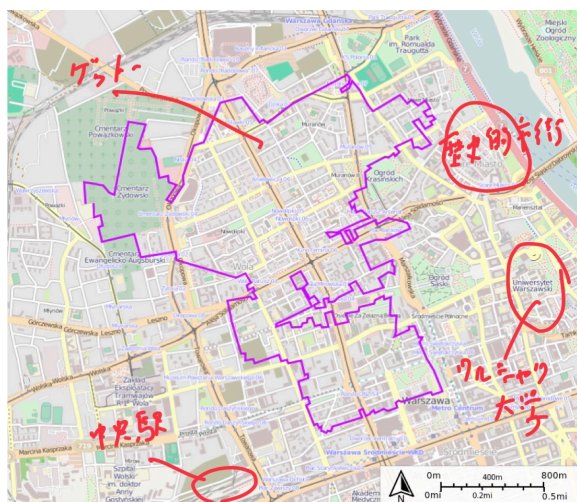


図1:ワルシャワ・ゲットー

図1にみるようにゲットーはワルシャワ市の中心部に設

定されました。1944年8月にはワルシャワ蜂起が起こり、歴史的市街を含めワルシャワ市域の9割近くが灰燼に帰しました。

2. ゲットーの記憶



図2:ゲットーを結ぶ橋

図2を見てください。ゲットーは高い壁で囲われましたが、ゲットーを閉鎖しながらゲットー外の交通を確保するためにゲットーの2つの部分は高い歩道橋で結ばれました。橋の下、市電が走っている通りを歩く人々はゲットーの外の人、そして橋の上を歩いている人々はゲットーに收容された人々（やがて殺戮される人々）です。ゲットーの存在はワルシャワでは戦後長らく社会的に「忘れられて」いました（戦争を経験した人たちの記憶には生々しく焼きつけられていました）。それが転換したのはようやく2000年代に入るところです。図3を見てください。市電の線路が横断歩道のところまで敷かれています。そこで途切れているので当然、実用的なものではありません。横断歩道の両側には青い柱がそれぞれ二本ずつ立っています。市電の線路は上の写真の線路をなぞったもの、柱は歩道橋の橋脚を象徴するものです。つまりいまの町並みのなかにゲットーの過去が想起されているのです。市電の線路のある通りはゲットーの「外」、道の両脇のアパート群はゲットーの「内」ということになります。図4の写真はワルシャワの中心地区に走る路上の記念碑でゲットーの内と外を明示しています。



図3:ゲッターを想起する



図4:ゲッターの壁を示す
「ワルシャワ・ゲッターの壁、1940-1943」とある

ら、みなさんが住んでいる町、学んでいる町について調べてみましょう。また東京の場合は東京大空襲・戦災資料センターという民間の研究・教育施設が貴重な展示を行っています。みなさんの町ではどうでしょう。調べてみてください。また空襲以外でも近・現代史の記憶は町の風景のなかにもどの程度留められていますか？それは今日の町づくりとどのようにかかわっているのでしょうか。みなさんが調べたそれぞれの町の記憶を比較しながら、歴史が現代にどのように生きているのか、または忘却されているのか、議論しながら考えたいと思います。



図5:戦災概況図(東京)

3. 私たちの町の記憶

私たちの町にもたくさんの記念的な場所(寺社、城跡、歴史的建造物、有形登録文化財など)があります。それでは町を「面」で見たとき、そこにはどのような歴史の地層を「発掘」することができるのでしょうか。ではじめに空襲の被災地域を考えてみましょう。左の地図は国立公文書館に所蔵されている「戦災概況図」の東京版です。空襲で破壊されたのはどのような地域で、そこは戦後どのように「復興」され、そしていまどのような姿をしているのでしょうか。なぜそこは空襲の対象となったのでしょうか。空襲以前、そこはどのような人々が住んでいて、どのような町並みが広がっていたのでしょうか。現在の町並みのなかに、そのような記憶は留められているのでしょうか。空襲で破壊された都市の「戦災概況図」は国立公文書館の以下のウェブ・ページで見ることができますか

参考資料

「全国戦災概況図」:

https://www.digital.archives.go.jp/DAS/pickup/view/category/categoryArchives/0200000000/0203000000_3/00

東京大空襲・戦災資料センター :

<https://tokyo-sensai.net/>

考えるヒント:

- ✓ 町を「面」で見たとき、そこにはどのような歴史の地層を「発掘」することができるのでしょうか
- ✓ 空襲で破壊された地域の地図と現在の地図を比較すると、このような地域はどのように復興して、現在、どのような姿をしているのでしょうか
- ✓ 身近な地域で、近・現代史の記憶は町の風景のなかにもどの程度留められているのでしょうか